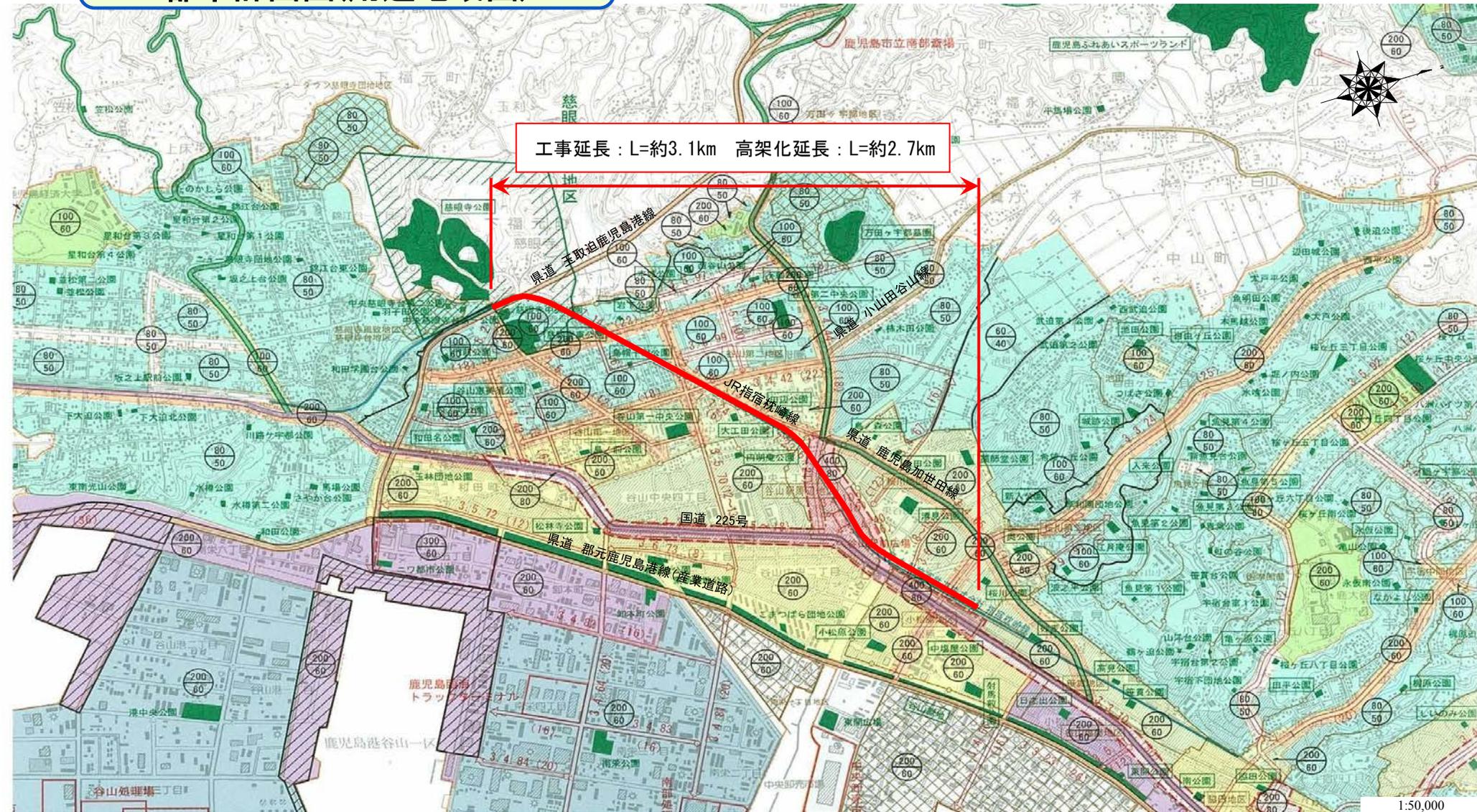


事業概要

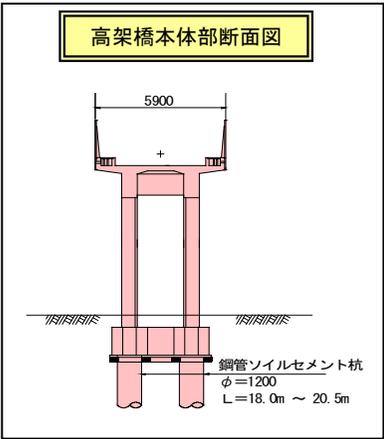
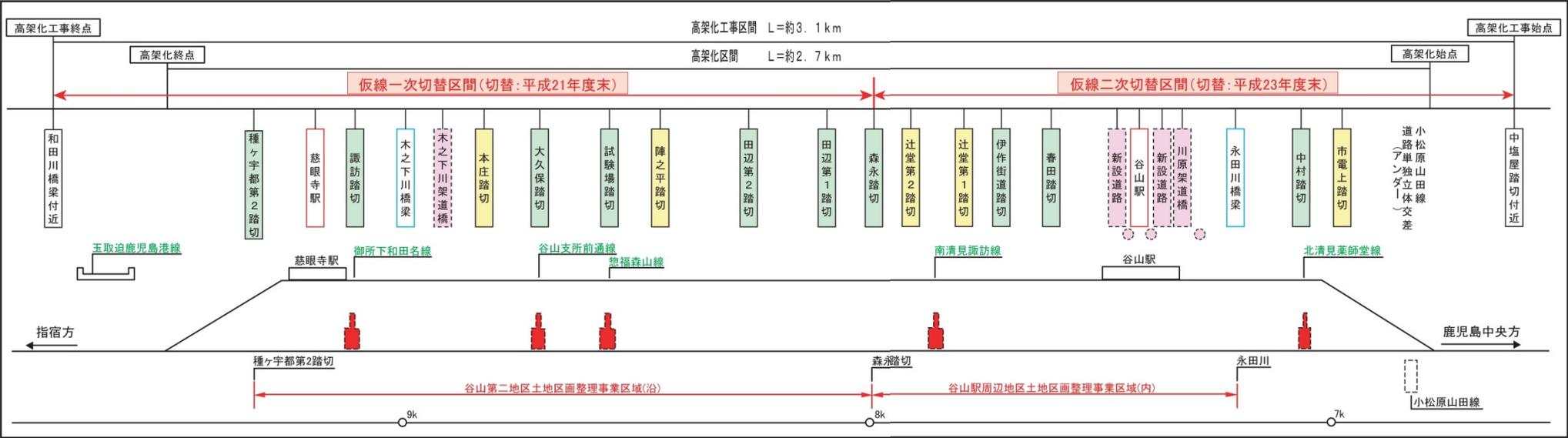
ふりがな 応募者名	かごしましけんせつきょくとしけいかくぶたにやまとしせいびか 鹿児島市建設局都市計画部谷山都市整備課	
ふりがな 事業の名称	たにやまちくれんぞくりたいこうさじぎょう 谷山地区連続立体交差事業	
ふりがな 事業主体	かごしまし 鹿児島市	
ふりがな 実施都市名	かごしまし 鹿児島市	
事業概要 (400字以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業名称: 谷山地区連続立体交差事業 ・事業延長: 工事延長 約3.1km 高架化延長 約2.7km ・駅施設: 谷山駅、慈眼寺駅 ・交差道路: 都市計画道路 5路線 市道 17路線 ・施工方式: 仮線方式(一部別線方式) <ul style="list-style-type: none"> ・事業箇所: 中塩屋踏切付近～和田川橋梁付近 ・構造形式: 高架方式 ・除却踏切: 15箇所 <p>本市の連続立体交差事業は、平成5年度より鉄道高架化の検討をスタートさせ、15年度の施行者拡大を受けて、17年度に中核市としては全国初となる補助採択を受けて事業を実施した。</p>	
事業規模	○事業費: 約184億円	○事業期間: 平成19年度～平成29年度
事業の目的	<p>鹿児島市の副都心として位置づけられている谷山地区では、地区内を南北に走るJR指宿枕崎線により市街地が分断されており、地域の一体的なまちづくりが困難な状況にあった。特に、東西を結ぶ幹線道路などの交通ネットワーク網を形成するうえで鉄道との平面交差が大きな障害となっており、都市活動やバランスのとれた都市の発展が阻害されていた。そこで、谷山地区のまちづくりと一体となった「JR指宿枕崎線の高架化」を進めることにより、東西の地域分断の解消と谷山駅周辺地区における効果的なまちづくりを図り、谷山地区における都市生活の安全性、快適性の向上を図るなど、都市環境の改善に資するものである。</p>	
事業効果 (効果一覧を参考に 具体的な効果を記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業後は交通量(自動車、歩行者)が増加しており、鉄道による市街地分断が解消された。 ・高架化により、踏切による交通遮断が解消され、交通の円滑化が図られた。 ・踏切が除却されたことで、踏切事故が解消され、安全性が向上した。 ・踏切が除却されたことで、事業後は走行速度が向上した。 	
地元対応等 ・地域住民との協働等 ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の仮線用地の大半は、本市施行中の土地区画整理事業区域であったため、説明会等を実施し、地権者の同意を得て、計画的に移転していただくことで、順調に仮線切替を行うことができた。 ・新たに生まれた高架下空間の活用について、住民アンケートを実施し、地域特性を踏まえた高架下利用とした。 	

都市計画図(用途地域図)

工事延長 : L=約3.1km 高架化延長 : L=約2.7km

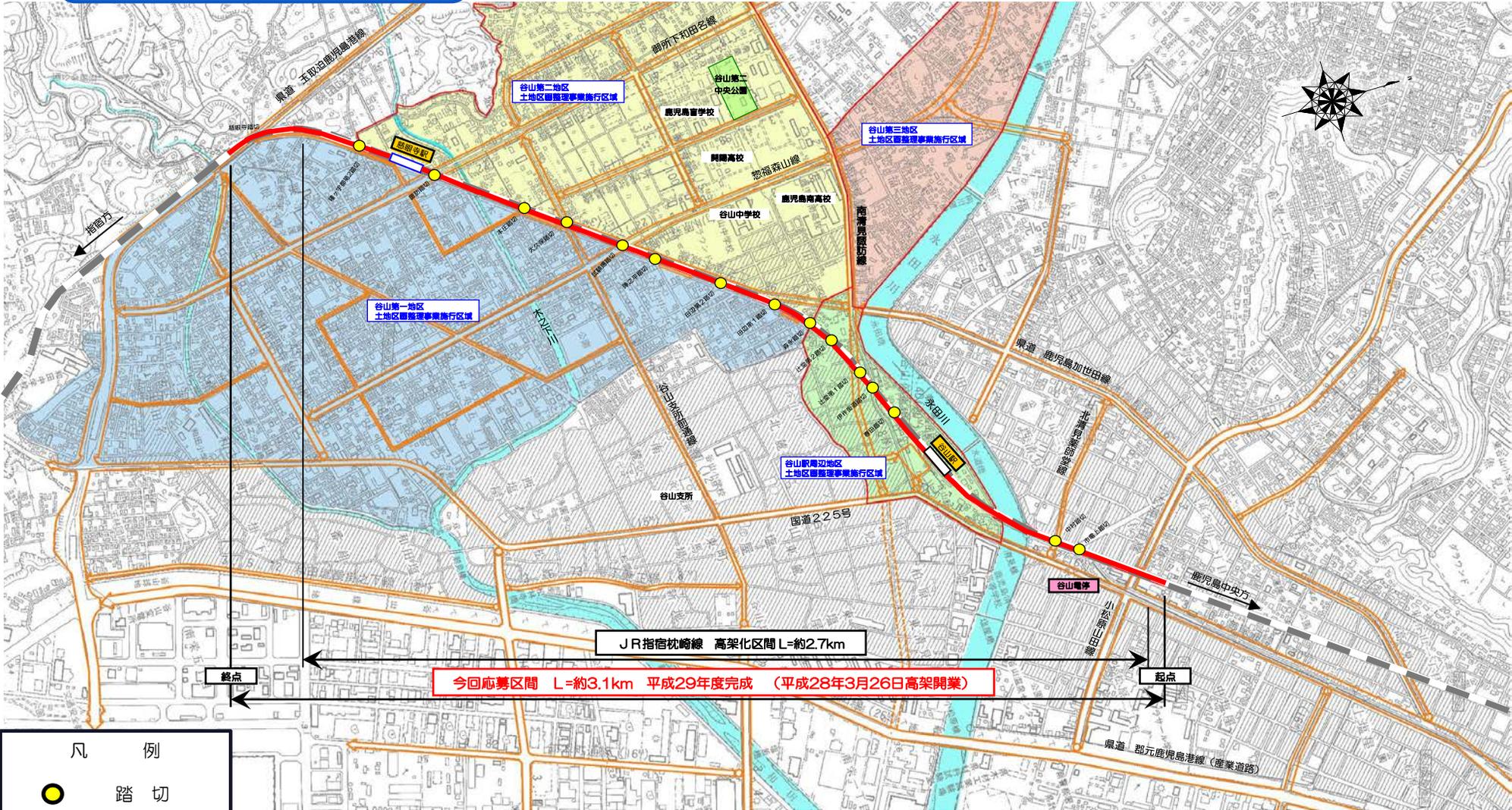


縦断面図



凡例		事業前	事業後
	踏切(自動車通行可)	10	15
	踏切(自動車通行不可)	5	0
	新設道路(自動車通行可)	0	4
	新設道路(自転車歩行車道)	0	3

路線全体の進捗状況



凡 例

- 踏 切
- 今回応募区間

今回応募区間 L=約3.1km 平成29年度完成 (平成28年3月26日高架開業)

JR指宿枕崎線 高架化区間 L=約2.7km

事業前写真

惣福森山線



平成15年6月撮影

御所下和田名線



平成15年6月撮影

谷山駅



平成24年9月撮影

事業後写真

惣福森山線



平成30年10月撮影

御所下和田名線



平成30年10月撮影

谷山駅

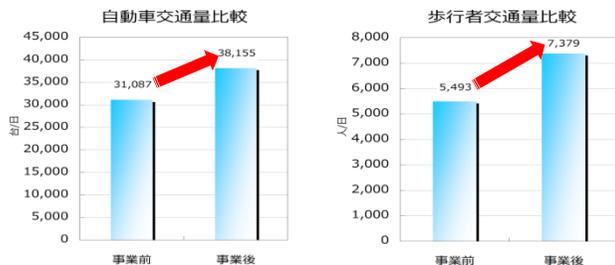


平成29年3月撮影

谷山地区連続立体交差事業の事業効果アピール資料

旧踏切箇所交通量

自動車交通量
約23%増加
歩行者交通量
約34%増加



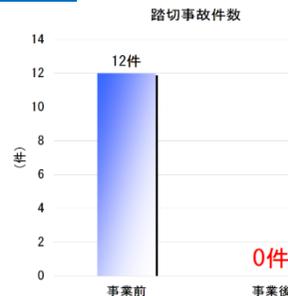
JR指宿枕崎線

鉄道高架により
地域分断を解消



踏切事故件数

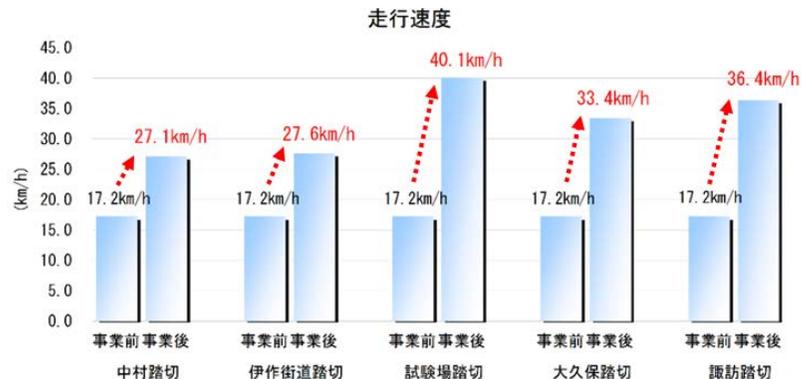
事故件数
0件



安全性の向上



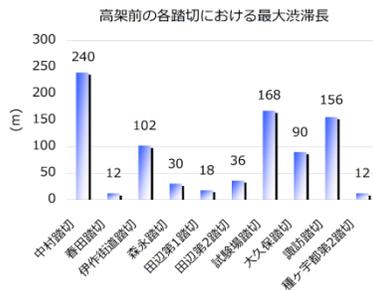
走行速度



走行速度の増加
17.2km/h → 32.9km/h 約91%増加

走行速度増加に伴いCO2の排出量も削減
2.53t-c → 2.07t-c 約18%削減

旧踏切箇所渋滞長



交通の円滑化

最大240mあった渋滞がゼロに

谷山地区連続立体交差事業の事業効果アピール資料

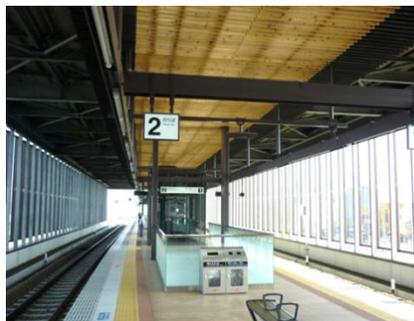
景観性

駅舎

谷山駅は、副都心の核にふさわしいボリューム感のある駅舎とするため、天井を高くプラットホームだけでなく線路も含め全体をフラットな屋根で覆っている。また、鹿児島県のシンボルである「桜島」の眺望に配慮した構造としている。

慈眼寺駅は、周辺の住宅街に配慮し、天井高を低く抑えコンパクト化を図り、プラットホームのみがフラットな屋根で覆われている。

両駅ともにガラス張りの防風スクリーンを設置し、ホームが明るい空間となるようデザインするとともに、鹿児島県特有の火山灰の影響も軽減できる。

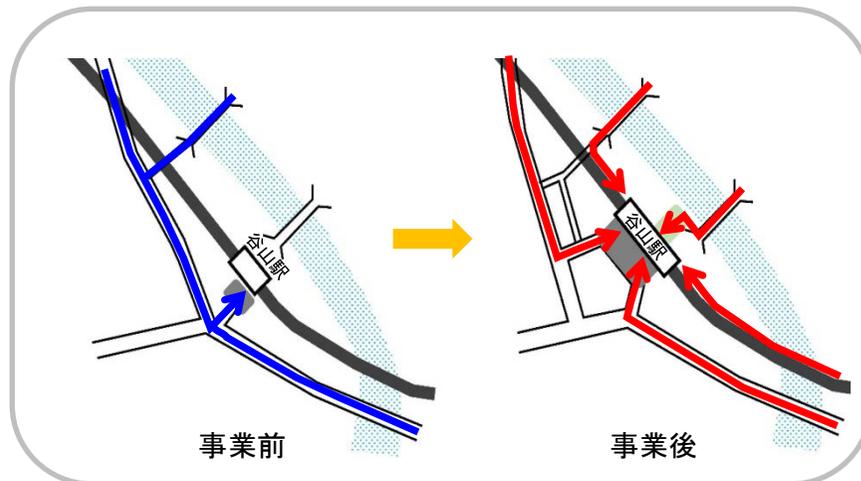


高架橋

高架下空間の利用を見据え、柱の一部を凹ませ、内側に高架からの排水管を設置することで、高架下利用者の視点に配慮した構造としている。



アクセスの向上



鉄道高架化に伴い、これまで駅舎へのアクセスが一方のみであったが、多方向から出入りが可能となり、利用者の移動距離や移動時間の短縮が図られ、利便性が向上した。

環境対策

事業前の軌道は定尺レールを使用しており、25m毎に継ぎ目が生じていたが、高架化に併せてロングレールを使用したことで、レールの継ぎ目部における衝撃が大幅に緩和され、騒音振動が低減されるとともに、列車の乗り心地も改善された。



朝日 49.3.17



高架化に伴い新しく完成したJR谷山駅(右下)。今後は駅周辺や高架下の整備が進められる＝郷土開発撮影・提供

谷山地区の高架化完成

鹿児島市がJR九州の谷山地区を進めていたJR指宿枕崎線の一部高架化と、谷山、慈眼寺両駅の新駅舎が完成し、26日に谷山駅で記念式があった。地元では線路で南北に分断されていた地区の一体的な発展のほか、踏切の廃止で交通渋滞の解消や事故減少に期待がかかっている。

2つのJR新駅舎も「副都心」整備へ ■ 渋滞解消

市南部にある谷山地区は、市の副都心として整備が進められている。連続立体交差事業では谷山駅近くから慈眼寺駅付近までの2・7キロの線路を高架化し、計15カ所の踏切が廃止された。2007年度から始まり、総事業費は約195億円にのぼった。

4月から17年度までに、高架のうち一部を駐輪場にしたりの仮線を撤去したりして整備する。市は高架化事業に合わせ、谷山駅周辺の約15・3キロで土地区画整理事業を行い、市民が楽しめる公園などを整備する方針だ。

新しい面駅舎は鉄筋コンクリート造り。側面にガラス張りの防風スクリーンを設置することで、駅舎内に自然の明るさを採り入れ、景観にも配慮した。列車は26日から新駅舎での発着を始めたが、谷山駅が慈眼寺駅方向へ約1000メートル移動したため、一部の区間の運賃が変更された。



JR谷山駅で出発の企画をする浦田向日葵さん(右)と中村輝さんら。いずれも鹿児島市

完成記念式典には、森博幸市長ら約170人が出席。森市長は「事業は20年以上かけて取り組んできただけに感慨深い。駅周辺の土地区画整理事業との相乗効果により、市の交通ネットワーク機能の強化につながる」とあいさつした。

(森国広)

南日本 49.3.17

慈眼寺高架 5000人歩く



開業前に高架線路を歩く参加者＝鹿児島市のJR慈眼寺駅

JR九州鹿児島支社と鹿児島市は13日、新設した指宿枕崎線・新慈眼寺駅付近の高架線路約600メートルを歩くイベントを開いた。子供から高齢者まで5千人が普段歩くことができない高架線路のワークを楽しんだ。

ヘルメットをかぶり高さ約7メートルの高架線路上に上がった参加者は、コンクリート製の枕木

が敷かれた真新しいレールの横を歩いた。線路や核島をバックに撮影する家族連れも見られた。谷山駅近くに住む主婦脇脇キクエさん(58)は友人らと人で参加。貴重な経験。眺めもよかった。谷山駅周辺も踏切が整備され便利になると思うが、高架線路も周辺も事故がないよう願う」と祈った。

(清水裕貴)